

研修名 幼児教育・保育

平成30年12月6日(木) 10:00~12:30

講演 「絵を通して見るこどもの育ち」

講師 日本体育大学 奥村 高明 氏

1 講演趣旨

1) はじめに

絵を通して見るこどもの育ち～育ちを「能力の発揮」ととらえるために～

- ①子どもの様子から考えや心をどのように読み解くか
- ②子どもの表現から考えや心をどのように読み解くか

2) 子どもの見方

絵を描くことが楽しいと感じることは能力を発揮することであり、子どもは自ら意味や価値をつくりだす。

子どもは自分の作ったものを「確認」し、描いた絵と会話し「意味づけ」をする。保育士はその子を見るのではなく、その子から見る。視点を変えることで子どもの理解につながる。

子どもをとらえるためにすること

- ①子どもの視線を見る
- ②子どもの手もとを見る
- ③子どもの動きや姿勢を見る
- ④子どもとの対話を見る

そのために保育士は指導方法や環境構成を工夫していく。

3) 子どもたちの未来

子どもの学力は変化している。知能は上昇し、概念的知識を操り認知的に進化している。その背景にはTV・映画などの視覚文化の発達、道具の進化、栄養の改善、経済の発展、教育の発展がある。

その結果、今の子どもたちは相当私たちと違う世界にいる。認知的な進化だけでなく、多様な価値観が存在する中で生きている。

このような時代の中で、自分が本当にやりたいこと、好きなことをしていきたいという人が急速に増えており、創造性の重要性が重視されてきている。

4) 子どもの絵の見方

① 子どもの絵を上手に読み解く

- ・近づく 子どもの描いている視点でみると体験なのか概念なのかがわかる
- ・たどる 子どもの描いた手順どおりにたどるとプロセスがわかる
- ・考える 子どもと同じ視線で見て子どもが絵と対話している声を聞く

②子どもと上手に語り合う

子どもが「先生出来た」と絵を持ってきたときにどのように関わるか

- ・まず子どもの目を見て、出来たということを認める
- ・絵を手に取り「ここは？」と部分のことを聞き、興味があることを示す
- ・周りとの影響や比較が出来てしまうため、褒めることはしない
- ・「楽しいね」「飾ってみたいな」「もっと見たいな」など感じたことをそのまま言葉にして伝える

5) おわりに

最大の教育効果は教師であり、教育は先生で決まる。たったひとりでは「かけがえのない存在」にはなれない。子どもをかけがえのない子どもにするためには、その子を有能だと認める教師の存在が必要である。

2 感想

今を生きる子どもの社会は、私たちの子どもの頃の社会とは違って当然であり、子どもの考えや心を読み解くために子どもと同じ視点から見ることの大切さに気づかせていただきました。

子どもの絵や表現したことを認めたり、大切に手に取って聞いたり、感じたことを言葉にして伝えたり、当たり前のことを丁寧に大切に関わっていきたくて思いました。

文化や道具が進化したり、経済や教育が発展しても子どもにとって一番大切なことは、身近な大人（教師、保育士）が子どもを認めることであり、保育士の重要性を改めて感じながら日々保育していきたいと思いました。

(記録 京田辺市立三山木保育所 立花 真紀)

